

「葛城市の未来を考える～地域活性化 と環境・文化・産業」

2006年10月14日

同志社大学大学院 総合政策科学研究科
博士前期課程 増田知也

概要

- 地域とは、地域活性化とは
- 地域活性化と環境・文化・産業の関わり
- 環境・文化・産業の間に好循環を起こすには
- 葛城市基本構想の評価
- 葛城市のまちづくりのテーマは何か
- これからのまちづくりに向けて

はじめに

- 合併から2年
- 葛城市の実感
 - 役所・議会が合併しただけ
 - 葛城市としての実感を感じない
- 葛城市の未来
 - 地域をどうすれば良いのか
 - 葛城市という枠組みで良いのか

地域とは何か

- 広辞苑「区切られた土地。土地の区域」
- 地域の階層性
 - 大字(自然村)→小学校区(明治の大合併・行政村)→中学校区(昭和の大合併)→葛城市(平成の大合併)
 - 葛城地域(平成の大合併?)→奈良県→近畿地方→日本→アジア
- 歴史的・経済的・文化的に一体性を持つ、地理的な範囲

地域活性化とは何か

- 地域活性化のイメージ
 - 地域振興、地域再生、まちおこし・むらおこし
 - 地域活性化＝産業振興＝企業誘致・公共事業？
 - 文化行政＝文化ホール・文化教室→関係ない？
 - 環境行政＝規制強化→マイナス？
- 地域の魅力を高める
 - ここを訪れたい・ここに住みたい・ここで働きたい・ここで表現したい
 - 主語は「人」
- 環境・文化と地域活性化の関係は？

環境・文化と地域の魅力

- 環境質のピラミッド概念
(宇都宮深志『環境行政の理念と実践』)
 - ⑤芸術、文化、美
 - ④歴史的環境の保存
 - ③快適さ(静かなたたずまい)
 - ②公衆衛生(公害のない状態)
 - ①生態学的安全性
- マズローの欲求段階説
(神野直彦『地域再生の経済学』)
 - ⑤自己実現の欲求
 - ④自我の欲求
 - ③社会的欲求
 - ②安全の欲求
 - ①生理的欲求

環境・文化・産業の好循環

- 環境・文化・産業の好循環

- 豊かな環境の上に文化が生まれる
- 環境と文化が地域の魅力を高める
- 魅力的な地域には人が集まる
- 人が集まる所には産業が興る
- 産業が環境・文化を維持・更新する

- 事例

- フランス・ストラスブール(神野直彦『地域再生の経済学』)
- 宮崎県綾町(保母武彦『内発的発展論と日本の農山村』)

ストラスブールの事例

- 自然環境の再生と文化の復興をキーワードに都市再生を進める
- 大気の浄化のためにLRT(Light Rail Transit: 次世代路面電車)を敷設し、自動車の市内乗り入れを原則禁止
- 同時に、フランスとドイツの文化が融合した、アルザス・ローヌの文化の復興を進める
- 教育機関や研究機関、国際機関が立地、市街地の地価が上昇し、商店街が活性化、優秀な人材が終結し、新しい産業が生まれることで、雇用が増加

綾町の事例

- 町域の8割を、照葉樹林からなる森林が占める
- 照葉樹林の伐採反対運動がきっかけで、「自然生態系との共生」という思想を基底としたまちづくりを進める
- 照葉樹林の保全と活用、自然生態系農業、自然の中の手づくり工芸、農村と都市との交流と共生などの政策を展開
- 工芸家や農業者が多く綾町に移住し、観光客も大幅に増加した。

好循環を起こすために

- まちづくりの明確なテーマ
 - 地域を特徴づけるもの
 - 具体的なもの
 - 自然環境・伝統文化・地域産業に関わるもの
 - まちづくりのストーリーを描く
- 「ここにしかないもの」を探す

「ここにしかないもの」とは

- ここでは当たり前のももの＝ここにしかないもの
 - 自然環境
 - 伝統文化
 - 地域産業
- みんなが欲しがるもの＝どこにでもあるもの
 - 温泉・テーマパーク
 - スーパー・コンビニ・ショッピングセンター
- ここにしかないものは逃げないが、どこにでもあるものはどこへでも逃げていく

葛城市の資源

- 葛城山麓の自然環境
- 白鳳時代からの伝統文化
- 農業など地域産業
- 人と人とのつながり
- 公共施設
- 交通の便
- →これらをつなぎ合わせる、まちづくりのテーマとは？

葛城市基本構想

- 都市像「悠久のロマンと次代の英知が織りなす爽快都市(シティ) 葛城」
- 政策の柱
 - 安全・安心～安全が守られ、安心して暮らせるまち～
 - 愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
 - やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
 - 参画・活力～市民と行政が目標を共有し、ともに取り組むまち～

基本構想の評価

- 評価できる点
 - 単純な開発指向ではない
- 問題点
 - まちづくりのテーマが明確でない
 - 政策分野間の関連性がない
- →「葛城市」という単位で良いか

葛城市に一体性はあるか

- 歴史的一体性
 - 葛城氏の支配地域の一部
 - 葛下郡の一部と忍海郡
 - 北葛城郡の一部
- 文化的一体性
 - 葛城山麓文化？
- 経済的一体性
 - 山麓線
 - 大阪とのつながり

葛城市の構造

- 葛城市
 - 政治・行政の単位
- 中学校区
 - 公共施設
- 小学校区
 - 歩いて行ける範囲
 - 教育・福祉
- 大字
 - 歴史・文化の源泉、日常生活の範囲

市町村合併を越えて

- 九州・由布院盆地（中谷健太郎『由布院に吹く風』）
 - 北由布村・南由布村が合併→由布院町→湯平村と合併→湯布院町→挾間町・庄内町と合併→由布市
 - 合併によって、かえって昭和の大合併の前に戻ることができるのではないか
- 大和・葛城・〇〇村
 - 葛城地域の〇〇村という意識
 - 葛城市は中間的な組織という位置づけ
 - 合併に左右されないまちづくり

これからのまちづくりに向けて

- まちづくりへの市民の参加
 - 「葛城市民の市政への参加意識としては、個々人での協力の意識は比較的高いものの、自主的に活動し主体的に行政に対して提言したり、市民活動のグループに参加し活動したりといった意向は低い状況にあります。特に、若い年齢層において、その傾向が強くみられ、関心がないという割合も多くなっています」(基本構想)
- 「むら」単位でのまちづくりへの取り組みが必要
 - 自然環境の保全
 - むらの歴史・文化の見直し